

防災まちづくりと震災復興

関西学院大学
室崎益輝

はじめに・・・「減災」の考え方

小さな災害には「防災」で良いが、
大きな災害には「減災」の考え方が必要

理念的な概念・・・大きな自然に対する小さな人間
実践的な概念・・・対策の足し算による被害の引き算

実現可能な対策を有機的に融合させて、可能な限り被害
をゼロに近づけようとする「災害への構え」



減災の四つの足し算

体系的戦略としての減災

- (1) 手立ての足し算・・ハード、ソフト、ヒューマン
- (2) 空間の足し算・・大きな公共、小さな公共

実践的戦略としての減災

- (3) 時間の足し算・・事前、最中、事後
- (4) 人間の足し算・・行政、市民、中間組織



まちづくり・空間と手段の足し算

減災の基盤形成としての「まちづくり」

体質そのものを変える対策として欠かせない

(1) まち・街でもない町でもない「まち」

手段の足し算としての「まち」

(2) つくり・手づくりの「つくり」、つくり酒屋の「つくり」

人間の足し算における市民の「つくり」

空間の足し算における小さな空間の「つくり」



減災サイクル・・時間の足し算

時間の足し算は、減災のための時系列的なサイクルを構築すること・・・防災まちづくりと震災復興との連関性

(1) 応急対応中心主義からの脱却

(2) 事前と事後の連関性の重視

復興は、次の予防につながる

今の予防は、復興を左右する

(参考) 住宅の減災・・耐震補強と再建支援は車の両輪

「家検制度」の提案・・補強をして家検を受けていれば、
再建支援等で優遇される制度



防災まちづくりのスキーム

防災まちづくり・事前の環境基盤整備

(1) 課題・・予防、応急準備、復興準備

(2) 視点・・総合性、包括性、戦略性、協働性

(3) 手法・・ハード、ソフト、ヒューマン

規制誘導、施設整備、態勢構築、計画策定

具体的には

危険性を評価する・・減災戦略を立てる・・事業を具体化する・・市民協働で推進する・・実行管理をはかる



防災まちづくりの戦略


スピード感を持って、民間の力を積極的に活用しながら、
持続的・計画的にまちづくりを進める

「防災の公共性」からのインセンティブのある施策

規制緩和、税制優遇、包括助成など

減災に取り組む民間組織への活動支援

コストベネフィットを考慮した施策の実施



震災復興の目標

復興の3目標

- (1) 自立・被災者の自立と被災地の再生をはかる
被災地の民意を尊重する
- (2) 安全・安全で安心できる地域社会をつくる
安心の要件をしっかりと考える
ハード+ソフト+ヒューマン
アメニティ+コミュニティ+サステナビリティ
- (3) 挑戦・顕在化した社会的課題の克服をはかる
地域格差、経済格差をなくす
環境共生、持続開発を目指す



(参考) 東日本大震災が投げかけた課題

危機管理体制の脆弱性と国土社会構造の脆弱性という「二つの脆弱性」が、大震災により顕在化した。復興と減災の取組の中で、この二つの脆弱性を早急かつ確実に克服しなければならない

(1) 危機管理体制の脆弱性

計画面、態勢面、運用面の脆弱性

(2) 社会国土構造の脆弱性

体質面、政策面、教育面の脆弱性



震災復興の原則

復興の3原則

(1) 運動論・・段階的に考える

総論は早く各論はゆっくりと
被災者の自立を根幹に置く

(2) 計画論・・包括的に考える

防災は隠し味である
暮らしの総体、日本の全体を考える

(3) 制度論・・即地的に考える

被災者や被災地の事態に即して
自発性や自立性を引きだす制度の運用



震災復興の準備

復興の準備

(1) 計画・事前復興計画

ビジョンの共有、災害規模に応じた複数の計画

(2) 訓練・事前復興訓練

市民も参加した復興のシミュレーション

(3) 財源・資金調達計画

基金、共済、債権、増税などによる資金調達

(4) 制度・緊急措置検討

建築規制、生活支援などの臨時法制の検討

